

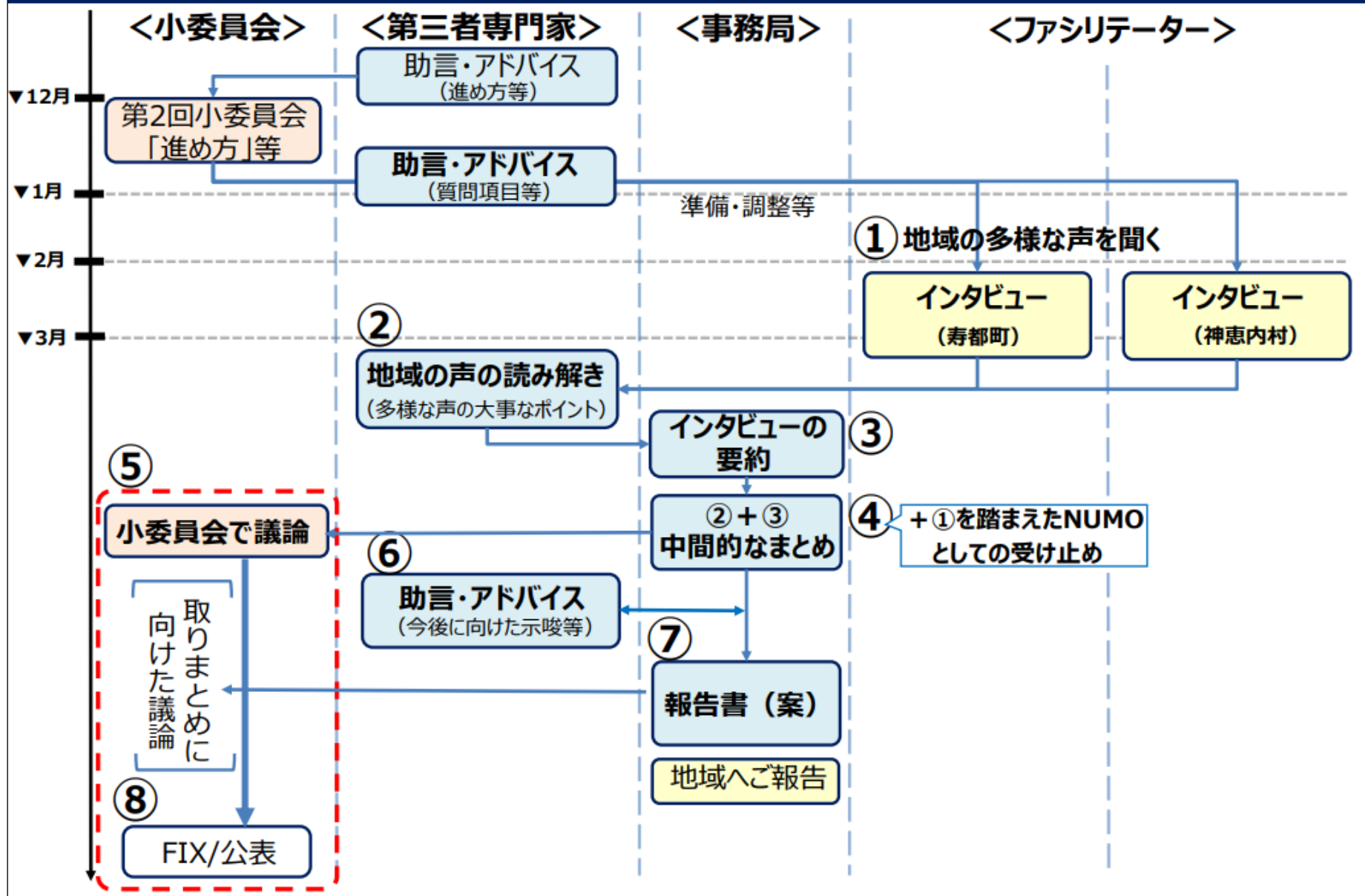
「対話の場」振り返りインタビュー等の 中間的なまとめに関する報告

2024年4月30日

原子力発電環境整備機構

(参考) 進め方について

(1) 今後の進め方について



インタビューの進め方

- 第2回小委員会での御意見を踏まえ、進め方（案）を修正して実施。

（参考）第2回小委員会で頂いた御意見

インタビュー役に関する御意見

- ・ ベストな考えだが、ファシリの労力が心配。
- ・ 違和感が残るが地域との関係性を築いているメリットもある。
- ・ 声を集める点では、ファシリがインタビュー役でよい。
- ・ **対象者によって、話しやすい人は異なるのではないか。**
- ・ ファシリも振り返りの対象者、インタビュー役は第三者に。
- ・ ファシリによるインタビューは、第一当事者。進行等に関して、言いづらい環境になるのではないか。
- ・ 客観性の確保に限界。第三者専門家による聞き取りはどうか。

【進め方】

	寿都町・神恵内村	
インタビュー役と形式 （選択肢）	① ファシリテーター ② 調査会社調査員 ③ NUMO職員	— グループ ※ — 個別（戸別） ※ — 個別（戸別） ※
	※（住民の皆さまの希望を優先のうえ）第三者専門家の陪席が可能	
インタビューの流れ	① 趣旨の説明 ② 「対話の場」の経緯等の振り返り（NUMOより情報提供） ③ 質問項目に対して御意見を伺う	
追加聞き取り項目	ファシリテーション等の質問は、無記名式アンケートを併用	
音声記録	調査正確性・公正性観点から住民の皆さまの同意を得て実施 （引用の際は匿名化、一般には非公開、調査目的のみ使用）	
進めるにあたっての 留意事項	「日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針」の一部を参考にインタビューの実施に向けた人権保護・記録の取り扱い・公開・用途などのルールを定める	

インタビューの実績

- 寿都町、神恵内村にてインタビューのご協力が得られた方、**計51名に聞き取りを実施。**
- 期間：2月28日～3月21日（寿都町）、2月28日～3月18日（神恵内村）

寿都町

対象者（カテゴリー）	人数
1. 「対話の場」 現会員	13/17
2. 「対話の場」 旧会員、退会会員	1/7
3. 出席ご経験のない町民の方	4/4
4. 勉強会メンバーの方	12/21

合計：30名/49名協力依頼

形式	回数
グループインタビュー	8
個別インタビュー	5

※2名以上はグループでカウント

インタビュー役	回数
ファシリテーター	7
調査会社調査員	2
NUMO職員	4

※希望により調査員が1回グループインタビューを実施したため、ファシリテーター回数は1回減

神恵内村

対象者（カテゴリー）	人数
1. 「対話の場」 現委員	13/17
2. 「対話の場」 旧委員	2/3
3. 「対話の場」 傍聴者	4/6
4. 出席ご経験のない村民の方	2/2

合計：21名/28名協力依頼

形式	回数
グループインタビュー	3
個別インタビュー	8

インタビュー役	回数
ファシリテーター	4
調査会社調査員	0
NUMO職員	7

※希望によりファシリテーターが1回個別インタビューを実施したため、回数は1回増

第三者専門家の陪席と逐語記録の読み解き

- 第三者専門家の希望及び住民の方の希望に合わせて、7名の第三者専門家に現地またはオンラインにてインタビュー時の陪席を依頼。逐語記録の読み解きは下記本数を依頼。

【陪席の実績】

寿都町 ※1回のインタビューで複数名の陪席ありのため人数は延べ人数の合計

形式	現地陪席	オンライン陪席	: 人数
グループインタビュー	4回	4回	10名
個別インタビュー	0回	2回	4名

神恵内村

形式	現地陪席	オンライン陪席	: 人数
グループインタビュー	1回	2回	4名
個別インタビュー	0回	1回	2名

【読み解きの依頼実績】

寿都町

形式	本数
グループインタビュー	8
個別インタビュー	5

※2名以上はグループでカウント

神恵内村

形式	本数
グループインタビュー	3
個別インタビュー	8

逐語記録の読み解き

- インタビューを中間的なまとめとして報告するにあたり、客観性を確保するため、第三者専門家7名にインタビュー内容を記録した逐語記録の読み解きを依頼中。

【読み解きの進め方】

- ① 逐語記録は、7名の専門家に陪席された回を中心にグループインタビュー、個別インタビュー、2自治体のバランスなどを考慮し**1名で3～4本程度の読み解きを依頼**。
- ② 読み解き作業は、地域の多様な声を抽出するためインタビューの発言部分から今回のとりまとめの趣旨に照らして、**拾うべき大事なポイントを逐語記録上で明示**して頂く。
- ③ 抽出した発言部分は、事務局が発言の趣旨や意図に沿って要約作業を実施し、質問ブロックごとに中間的なまとめの資料として整理。

【読み解きの割り当て】

(：本)

第三者 専門家	寿都町		神恵内村		計
	グループインタビュー	個別インタビュー	グループインタビュー	個別インタビュー	
A	1	1		1	3
B	1			2	3
C	1		1	1	3
D	2	1		1	4
E	1	1	1	1	4
F	1	1	1	1	4
G	2			1	3

陪席と読み解きに伴う第三者専門家からのコメント

- 第三者専門家による陪席を踏まえて、進め方が適切であったかコメントを収受。
- 一部に課題の指摘部分もあり。ただし、住民の皆さまの話しやすい環境づくりやファシリテーターを入れた聞き取り方法については、**全般的に適切に進められていた**との評価。

【頂いた主なコメント】

- 全般的に良かったと思いますが、複数の方が参加した場合、どうしても年長の男性の方の意見が強く出てしまいがちなので、そこは配慮が必要かと思います。ファシリテーターは適切だったと思います。
- 基本的には、適正な進め方となっていたかと思います。ファシリテーターがインタビュアーとなることに関しては、「対話の場づくり、運営・進行に関しては、最大の当事者である」点をご指摘しておりました。若干、復唱・要約の際に、やや踏み込み過ぎ・先取りし過ぎとも感じられる箇所もありましたが、最大限、マイナス要因の除去を意識し、ご配慮いただいていたものと推察いたします。
- 話しやすい環境づくりも重要ですが、環境に依らず、積極的な発言をされたのではないかと想像します。傍聴した中では特段、誘導的な部分は感じられませんでした。今回は対話の場を通して信頼を得てきた方が聞き取り役をされたため、多様な考え方を持つ方々で構成された場を巧みに仕切っておられたと思います。
- 陪席したなかでは、総じて、参加者は話しやすく自由な雰囲気の中で議論していたように思います。慣れ親しんだファシリテーターが司会役を務めることによって、インタビューの対話的環境が作られたというポジティブな側面と、あまりにもファシリテーターに依存したインタビューになっているというネガティブな側面の両面を感じました。なお、NUMO職員はインタビューにおいて誘導などをすることは全くなく、極めて公正に役割を担っていたと考えます。
- （陪席した）すべてのインタビューにおいて、NUMO職員からは、当日の主旨と「対話の場」振り返りの情報提供として統一的にまとめられた資料の紹介、そして当日の会場内の参加者の紹介と役割の説明があり、出席して下さった地域の方々が、会合の主旨にそって忌憚なくお話しいただける場づくりができていることを、現場及びオンラインで確認いたしました。また、NUMO職員は上記の発言がほとんどで、地域の方がおひとりの場合は聞き取り役も担当していたが、予断を与えるようなコメントはなく、粛々と進めていたと受け止めている。
- 全てにおいてではありませんが、対話の場に進行のあり方、対話の場のあり方に関して、ヒアリング対象者が批判的意見や疑問を述べた際、NUMOがどのような意図があったかを説明するなどしていました。これは、聞き取りではなく、NUMOの説明と見られます。つまり質問対象者の意見を、NUMOの意図に沿うように誘導していました。
- インタビューの進め方自体は問題なかったと感じます。

寿都町、神恵内村における「対話の場」等の設置・運営状況

- 「対話の場」は2021年4月以降、これまで**寿都町17回、神恵内村18回**を開催。
- **各自治体や参加者の意向を踏まえて運営**。自治体ごとに運営方法に特徴がある。

	寿都町	神恵内村
設置	寿都町	神恵内村・NUMO
事務局	寿都町・NUMO	NUMO（村は協力）
構成員	● 町が指名、町議会議員並びに産業団体等代表等 ● 現在会員17名/23.9末時点	● 村内の各種団体及び地区の代表者＋公募 ● 現在委員17名（うち公募3名）/24.4時点
進行役	ファシリテーター 竹田宣人氏 北海道大学大学院工学研究院客員教授	ファシリテーター 大浦宏照氏 NPO市民と科学技術の仲介者たちの代表 佐野浩子氏 presence Bloom代表
進め方	前半：スクール形式 後半：コの字型、少人数グループワーク形式	少人数グループワーク形式
議題	議論を踏まえて 事務局が提案	運営委員会 に諮り検討（委員3名、ファシリテーター、事務局）
公開方法	● YouTubeライブ配信（意見交換部分非公開） ● 後日動画・会議録をNUMOHPで公開 ● 後日意見交換部分の動画を公開 ● 傍聴不可	● YouTubeライブ配信（意見交換部分音声なし） ● 後日動画・会議録をNUMOHPで公開 ● 村民の方に限り事前申込により傍聴可
結果周知	● 「対話の場通信」を広報誌に折込・周知 ● 後日ケーブルテレビでの動画放送 ※ケーブルテレビが視聴できない方にはDVDを貸出	議論の結果をまとめたチラシを作成しNUMO職員が全戸配布
ほか	● 「町の将来に向けた勉強会」 17回開催 ● 現在メンバー21名	

(参考) 特定放射性廃棄物の最終処分に関する基本方針 (令和5年4月28日閣議決定)

第3 概要調査地区等の選定に係る関係住民の理解の増進のための施策に関する事項

(中略)

概要調査地区等の選定が円滑に行われるためには、関係住民に継続的かつ適切に情報提供が行われ、関係住民の意見が最終処分事業に反映されることを通じ、地域の主体的な合意形成が図られることが重要である。この観点から、概要調査地区等の選定に向けた調査の段階から、多様な関係住民が参画し、最終処分事業について、情報を継続的に共有し、対話を行う場（以下「対話の場」という。）が設けられ、積極的な活動が行われることが望ましい。このため、機構及び国は、関係住民及び関係地方公共団体に対し、その有用性や活動内容の可能性を具体的に示す等により、対話の場が円滑に設置されるよう努めるものとする。また、機構及び国は、専門家等からの多様な意見や情報の提供の確保を含め、その活動を継続的かつ適切に支援するものとする。

インタビュー結果の概要と今後に向けて①

【①場づくりについて】対話の場会員・委員

1. ご質問 項目

Q1.対話の場の目的である「事業への賛否によらず、情報提供や意見交換ができる環境づくり」の状況についてどう思いますか。

Q2.「参加者の皆さんの意向を尊重する」という場づくりの状況について、どう感じますか。

2. ご意見 の概要

1. 2自治体とも賛否によらない、参加者の意向を尊重した場づくりは概ねできていた。
2. 会則や場のルール（他人の意見の尊重等）の設定が場づくりに寄与しているとの意見。
3. 課題：寿都町は地層処分の事業説明の間は率直な意見交換は少なかったとの意見。
4. 神恵内村は多世代で属性の異なる住民同士が議論できる場になったとの意見。

3. 今後 に向けて

1. 場づくりにあたって必要な会則やルールのあり方
2. 参加者の構成や意向に沿った話しやすい環境づくり
3. 慎重な意見を持つ住民の方を含め多様性に富んだ方々の参加を促す工夫 ほか

【① 場づくりについて】対話の場会員・委員による主なご意見

<寿都町>

(Q1.)

- ・ 言葉に気を使いながらも情報交換や意見交換はできていた
- ・ 前半の地層処分テーマの回は率直な意見を言い合った印象は少ない
- ・ 発言しても否定はされない環境だった
- ・ 賛成反対両方の有識者の意見を聞く場があるとよい
- ・ まちづくりの観点をNUMOと一緒に議論したくない
- ・ まちづくりをしたい賛成派は交付金でと考える人が多い

(Q2.)

- ・ 会則の趣旨を理解せずに退会された方がいたのは残念
- ・ 推進派と慎重派の専門家の話が実現していない
- ・ 放射線の話も何でもないような印象の話が多く、そうでない専門家の話が実現していない

<神恵内村>

(Q1.)

- ・ 地層処分への理解は相当深まった
- ・ 村の将来についての議論は自治体の政策に反映されるところはまだこれからで難しい
- ・ 対話の場で地域の将来の議論をするのは賛成できない
- ・ 対話の場を村として位置づけてはいないので政策に反映させる責任はない
- ・ 地層処分事業への理解を深めていただく目的は、あまり村民には広まっていない
- ・ 理解の前に賛否があり、理解を止めた人に対話の場がきっかけになればよかったがそうならない
- ・ 盛り上がりはだんだんしぼんでいる印象
- ・ グループワークは小規模なので意見を言うことができよかった
- ・ いままで横の連携により村の将来を話し合う場がなかったのでよい機会になった
- ・ 村の将来のことや若い人の意見を聞いて話せたのはよかった
- ・ 賛否に偏らず意見交換できるか不安だったが納得して満足して毎回参加することができた
- ・ 最初は嫌だなと思ったが来ているうちに賛否関係なく夢中になって議論ができて楽しかった
- ・ 説明と対話は異なるので説明の機会であれば対話の場という表題には違和感がある
- ・ 説明の場と集まって対話したい人の場は分けて考えてもよかった
- ・ 場のルールに従って参加者がそれを守りながら話あったことがよかった
- ・ 説明のなかで知りたいことなど深掘りして急遽議題化したりしたことは運営委員会が機能していたおかげ
- ・ 資料もわかりやすく出ていたし話しやすい環境だった

(Q2.)

- ・ グループワークの時間が足りない、いい感じに温まってきたところで終わってしまう
- ・ 振り返りをして再度議論をするならよいがテーマが変わってしまうので振り返りの必要性があるのか
- ・ 批判的な方の意見を聞く時間を取られすぎている
- ・ グループワークでは対話ができている

インタビュー結果の概要と今後に向けて②

【② 議題の設定】対話の場会員・委員

1. ご質問 項目

Q.議題は、参加者の意見を踏まえて決められていましたか。

2. ご意見 の概要

1. 2自治体とも概ね参加者の意向に沿った議題で進められていた。
2. 課題：寿都町では慎重な意見の専門家との対論など一部テーマが未達の点が残念とする意見。
3. 神恵内村では運営委員会による議題の検討・決定の仕組みが参加者に受け入れられている。
4. 課題：より多様な有識者、専門家の講義や質問機会があるとよいとする意見。
5. まちづくり議論は肯定的な意見と、文献調査段階ではすべきではないという否定的な意見。
6. 参加者が話したいテーマを選び、小グループに分かれて対話する形などの意見。

3. 今後 に向けて

- 参加者の意向を汲み上げ、その意向に沿った透明性のある議題の検討・決定方法
- 多様な有識者、専門家による学習機会の提供
- 参加者の意向に沿ったまちづくり議論の取り扱い
- 参加者が主体的に多様な議題が選択できる場の仕組みや工夫 ほか

【② 議題の設定】対話の場合会員・委員による主なご意見

＜寿都町＞

- 学者が推論や理論のみで情報を流布されるのは困る、最新の科学的見地に基いて情報提供してほしい
- 多様な有識者の意見をもっときいてみたかった
- 議題は地層処分からはじまってまちづくりに進んだのは順番としてよかった
- 文献調査段階で終わる可能性もあるのに、まちづくり議論はまだ尚早ではないか
- まちづくりは役場と議論するならよいが、いまの時点では現実性に乏しいのでは
- 会員にアンケートして議題の取り上げ方を工夫してくれれば議論したいことが話せた
- 議論のテーマによって開催頻度を詰めるなどテーマによって変わってくるのではないか
- 議題の選択肢から希望の多いものを選ぶ方法
- 1つの会場に複数のテーマがあり話したいことを選ぶ方法
- 全体の場合よりもグループワークの場のほうが意見が言いやすい
- 賛成派の意見は議題が実現していくと感じた
- TRUは住民説明会では説明されていない
- 説明は丁寧でも最後に安全という落ちがある

＜神恵内村＞

- 意見が異なるのは仕方がないので運営委員会に任せており皆さん納得しているのでは
- どこまで詳しく勉強すべきなのか、学者になるわけではないのに終わりが見えない
- もっと知りたければ専門家に個別に聞くことで全員で話す必要性がないものもある
- グループに分かれて興味があることができれば結論がでなくても納得できる
- テーブルごとにテーマを分けて話したい、テーマごとに話せると満足度が高い
- 批判的な地質学者の意見を聞く機会が反映されたのはよかった
- 賛成、反対の有識者の討論はもう一度くらい機会があってもよかった
- 言葉が難しく、理解に時間がかかったが、一生懸命意見を出し合った
- 神恵内の地層がどうなっているのか興味がある
- 文献調査以外にも村の将来について議論する場がありよかった

インタビュー結果の概要と今後に向けて③

【③ 形式】対話の場会員・委員

1. ご質問 項目

Q1. 小グループに分かれた、ワークショップ形式での意見交換のやり方について、どう感じますか。
Q2. 参加してみて、他者の意見にもいいなと思えるものはありましたか。

2. ご意見 の概要

1. 2自治体ともにグループワーク形式を採用したことで参加者間の意見交換が促進された。
2. 全体の中では発言しづらく、少人数形式であるほうが話しやすい傾向。
3. 課題：寿都町では前半のスクール形式や事業説明の段階では対話になっていなかったとの意見。
4. 神恵内村ではグループワーク形式で自分とは異なる意見への出会いや気づきがあったとの意見。
5. 課題：グループの組合せ（賛否、入れ替え）への課題を指摘する意見。

3. 今後に 向けて

1. 参加者が話しやすい形式や環境づくりの検討
2. 話しやすいメンバー構成やバランスに配慮した多様な意見に出会える仕掛けや工夫
3. 一定の知識習得や視察・見学を踏まえた対話の環境づくりや対話の目的の明確化 ほか

【③ 形式】対話の場合会員・委員による主なご意見

＜寿都町＞

(Q1.)

- ・ グループワークは話し合いができてよかったが、グループごとの意見を取りあげて深掘りしてもよかった
- ・ 全般的に少し対話の形にはなっていなかった
- ・ 産業団体の代表は組織を背負っているので発言しにくい部分があったのではないかな
- ・ 役場の人に考えが伝わらず役場も議論に参加すべきだった、仲間内で話すだけでは意味を感じられない
- ・ 対話は名ばかりで地層処分の勉強が目的であれば、コの字型ではなく正面を向いて学んだほうがよかったのでは
- ・ グループワークは毎回同じ人ではなく、メンバーを変えていろんな人の意見を聞いてみたい
- ・ 参加者の構成における賛否が偏っているのでは、反対の意見も聞いてみたかった
- ・ グループワークのほうが話しやすい
- ・ 賛成、反対の人と一緒に議論させても一つにはならないと感じた
- ・ 団体のトップが町の指名で来てるので意見出しが活発にならない

(Q2.)

※Q1.に含む

＜神恵内村＞

(Q1.)

- ・ グループワーク時の雑音や距離感は課題
- ・ いろいろな業種や年代の人が集まり話すと楽しい、人数的にもちょうどよい
- ・ 参加者の構成はよかったが若い人、高校生なども入ってもよい
- ・ 神恵内出身で外から村を見ている若い世代の参加
- ・ 話し合った先にどうしたいのかが分からないので何のために話しあう機会だったのか
- ・ グループワークはみんなで話しができ、異なる意見や気づきもあった

(Q2.)

- ・ 参加してみているいろんな考えがあることに触れて有意義だった
- ・ 自分にはない質問や疑問点が出されたことでさらに参考になった
- ・ 丁寧に回答してもらえたことがよかった

インタビュー結果の概要と今後に向けて④

【④ 参加者の構成】対話の場会員・委員

1. ご質問 項目	Q1.参加メンバーの構成について、どう感じますか。こういう方も参加すべきという方はいますか。 Q2.人数や規模は、バランスについてどう思いますか。もっとよい方法があるとすればどんな方法でしょうか。
2. ご意見 の概要	1. 2自治体ともに現在の「対話の場」の参加者の構成では偏り、不足感があるとしている。 2. 課題：より多様な住民が参加し、話し合う機会の必要性を感じている。 3. 団体・組織の代表は（公開の場で）表だって意見を出しにくい立場であるとの意見。 4. ジェンダー、地区別、賛否、職業、世代などの様々な多様性の確保に関する考え方の意見。 5. 役場職員も制限することなく、広く公募で住民から参加者を募る形式への意見。
3. 今後 に向けて	1. 場の目的に応じた参加者の構成のあり方 2. 適正な参加者の人数や規模のあり方 3. 公募形式を採用する場合の条件、集め方等 ほか

【④ 参加者の構成】対話の場会員・委員による主なご意見

<寿都町>

(Q1.)

- ・ 活発に議論できたのはまちづくりテーマでのグループワークだが、地層処分事業の理解を深める目的ではできていない
- ・ 参加人数の大半が議員で占められていた
- ・ 女性の参加者が増え则认为方も多様になる
- ・ 女性だけの議論の場だと話しやすい状況になるのでは
- ・ 町内の地区ごとに一般の町民がまちづくりを話す機会はなかった
- ・ 町民の意見をバランスよく聞くためには、10代から50代まで年代ごとに均等に町民を参加させてもよかった
- ・ 参加者を町の指名で選んだことが反対派には受け入れられないのでは
- ・ 視察・見学後のほうが話しやすい、対話の場はセレモニー的なのでもっとざくばらんに話ができる場が必要
- ・ 町の将来に向けた勉強会のように反対の意見の人と一緒に勉強できる場が必要
- ・ 若い世代の参加者をもっと増やすべき
- ・ 女性も一人で年齢も高く、構成は偏っていた
- ・ 外からみると町には分断が起きてしまい対話どころではなくつらい
- ・ 慎重な立場から会場に経産省やNUMOや町長がいる場では対話しづらい

(Q2.)

- ・ 人数を増やして多様な意見が聞けるようにしてもよいのでは
- ・ 賛成・反対一緒に議論しにくければ、それぞれのチームを作って月1ごとに開催する方法もあった
- ・ 女性や反対の意見の参加者を増やす方法
- ・ 公募で町民から参加者を募る方法
- ・ 団体の長は組織の意見と捉えかねられず、もうひとり同じ団体から参加を募ればバランスが取れるのでは
- ・ 会則に縛られず、始まったら参加者側にも決める権利を持たせてもらい柔軟に運用する方法

<神恵内村>

(Q1.)

- ・ 団体に偏りすぎ、地区や町内会のバランスも配慮できたのでは
- ・ 団体や組織から参加している人はその団体や組織内での情報提供機会があったほうがよかった
- ・ PTA役員会でも5分でもいいから情報提供機会がつくれたかもしれない
- ・ 役場の人も村議も参加できる誰でも公募で参加できる方法
- ・ 団体や組織から人を出してもらっているがそれでも不足があり神恵内ではこれ以上の構成は大変
- ・ 公開は個人と発言が特定されてしまうので名簿での公開は避けた
- ・ 団体の代表であっても、団体のなかでは何を議論しているのか聞かれないので自分からも話さない

(Q2.)

- ・ 参加で役場の若手職員や学校の先生なども参加してはどうか
- ・ 若い世代の参加者を増やしたほうがよい

インタビュー結果の概要と今後に向けて⑤

【⑤ 開催頻度・タイミング】対話の場会員・委員

1. ご質問 項目

Q1.開催頻度や時間帯（平日夜）について、どう思いますか。

2. ご意見 の概要

1. 参加者には終業以降の平日夜開催で概ね受け入れられている。
2. 高頻度での開催はやや負担感もあるが、テーマによっては開催頻度高める等、柔軟にすべきとの意見。
3. 課題：開催スケジュールが見えずらく予定が立ちにくいとの意見。

3. 今後に 向けて

1. 地域の特性や参加者の意向にあわせた開催日時の設定
2. 参加者の意向を尊重したうえでの年間カリキュラムの作成
3. 場面やテーマに応じた柔軟な開催運営 ほか

【⑤ 開催頻度・タイミング】対話の場会員・委員による主なご意見

<寿都町>

- ・ 専門的な話になると参加者同士の対話になりにくい
- ・ 仕事終わりの平日の夜に、高頻度に参加するのは負担に感じた
- ・ 年間の開催スケジュールなど、見通しがわからない

<神恵内村>

- ・ 開催は平日夜がよい、週末は行事もある
- ・ 開催間隔が2カ月では空きすぎで振り返りなどしたくても忘れてしまう

インタビュー結果の概要と今後に向けて⑥

【⑥ 情報提供】対話の場合会員・委員

1. ご質問 項目

Q1.対話の場で提供した情報は、皆さんの地層処分の安全性に関する考えにどのような影響を及ぼしましたか。また、地層処分事業について、理解を深めることにつながるものでしたか。
Q2.安全性についてNUMOが情報提供したことについて、どう感じますか。
Q3.対話の場で提供した情報は、文献調査に関する考えにどのような影響を及ぼしましたか。また、文献調査について、理解を深めることにつながるものでしたか。

2. ご意見 の概要

1. 地層処分事業については、NUMOが情報提供を行ったことで概ね理解が深まることにつながった。
2. NUMOが説明役のケースでは説得するようには取られていない。
3. 概ね参加者のニーズに応じた回答の用意や情報提供ができていたとの意見。
4. 課題：説明内容や言葉が非常に難しく、理解するのが難しいとの意見。
5. 課題：NUMO以外の慎重派の専門家や第三者機関からの情報提供を望む意見。

3. 今後に 向けて

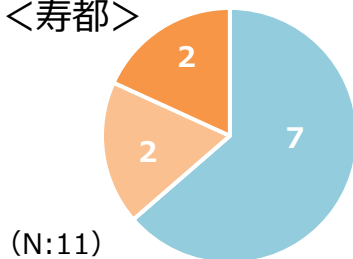
1. 参加者のニーズを踏まえた情報提供のあり方や視察や見学等と組み合わせた工夫
2. わかりやすく地域に引き寄せて知ることができる資料や説明方法の工夫
3. 安全性の考え方等のNUMO以外の専門家や第三者の機関からの情報提供機会 ほか

【アンケート】

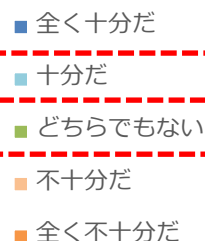
Q.地域の皆さまの见たい、知りたい、勉強したいというご要望に応じたNUMOの対応について、どう感じましたか。

※自由記述は、p47に掲載

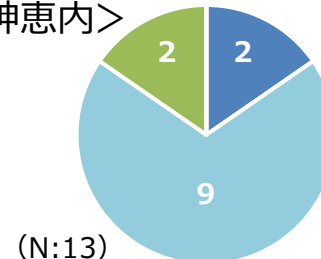
＜寿都＞



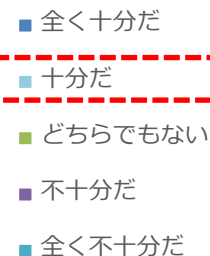
(N:11)



＜神恵内＞



(N:13)



【⑥ 情報提供】対話の場合会員・委員による主なご意見

<寿都町>

(Q1.)

- ・ 情報提供で地層処分の技術の高さは理解できた
- ・ 幌延に見学できてよかった、六ヶ所は地層処分事業の町づくりとは現実とかけ離れている
- ・ 地層処分技術が確立しているかどうかと比較しようがないが、原子力技術、科学の力は信じている
- ・ 地層処分は100%と言えるのか、99%安全でも1%のリスクが残る
- ・ 1%のリスクの重みを知り、理解することができた
- ・ 慎重派の会員の質問にも事務局がきちんと回答していた
- ・ 勉強での基本的な理解に加え、現物を見れる視察が有効である
- ・ 参加者が希望する議題で実現していないものがいくつかある
- ・ 勉強会で知識を増やしてから対話形式の場を実施すべきではないか
- ・ 地層処分がなにか分からない段階より、勉強してから対話したほうがよい

(Q2.)

- ・ 町も少し関わりを持ってもよかったのではないか
- ・ 地下が安全なのかボーリング調査して明らかにしてほしい
- ・ 慎重派の有識者による対論の機会が実現していない
- ・ JAEAなど第三者機関が説明してくれる方法
- ・ 地層処分も安全神話という思い、疑問は取り除かれてない

(Q3.)

- ・ 町は広報などの面で関わりが必要だったのでは
- ・ 文献調査だけでは分からないことが多い、概要調査とセットで実施すべき

<神恵内村>

(Q1.)

- ・ 幌延や六ヶ所など視察・見学に行ったことはよかった
- ・ 学者間でも見解が異なりオールジャパンで議論してもらえないのか
- ・ 反対するのは簡単だが活断層など未知のものもあって処分場をつくってもつくらなくてもリスクはあり続ける
- ・ 地層処分事業が国や規制委員会など大きな枠組みのなかで実施されていることが分かって参考になった
- ・ 情報提供は絵がわかりやく説明も聞きやすかった
- ・ まちづくりや村の将来の話をもう少し議論してみたかった

(Q2.)

- ・ N U M Oは事業者なのでいようにプレゼンする面は否めない
- ・ 都合が悪いことは回答しないという場面はなかった
- ・ 神恵内の具体的な位置に引き寄せて説明してほしい
- ・ N U M Oの情報提供ではマイナスな情報は出てこないのでは
- ・ N U M Oは事業遂行が使命、情報提供を行うのは当たり前
- ・ 異なる意見や立場の違う意見も情報提供する場
- ・ 反対の有識者などN U M Oにマイナスの情報も聞いてみたい
- ・ N U M Oの情報提供で説得されている印象はない
- ・ 質問の回答の根拠はわからないことがあった

(Q3.)

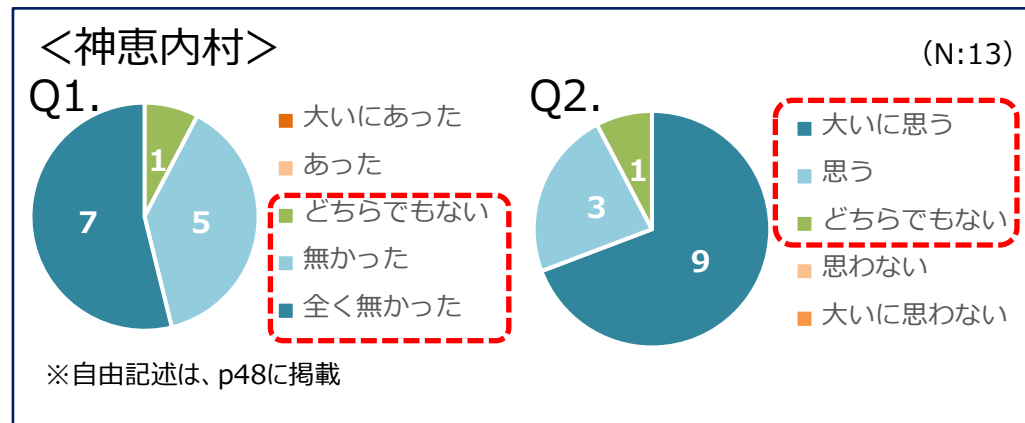
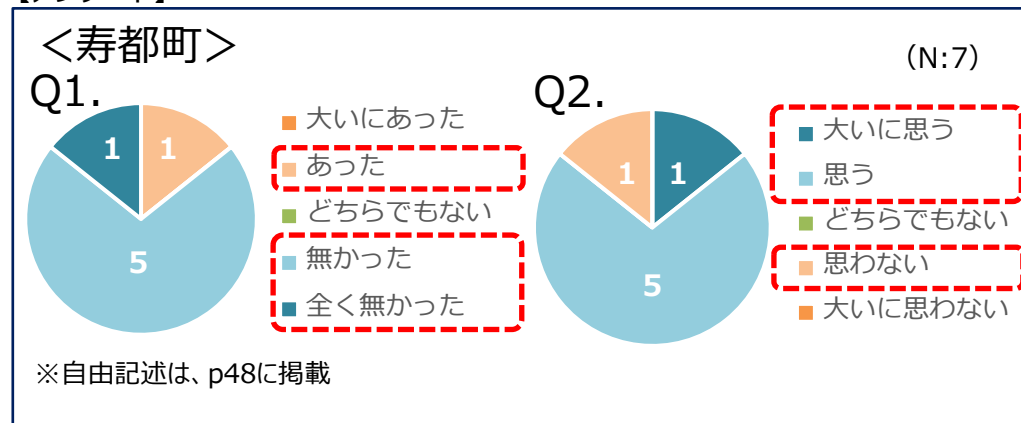
- ・ 情報提供されたものは非常に難しく、ファシリテーターが細かく仲介してくれて理解が深まった
- ・ ファシリテーターの説明なしには理解できない情報が4割以上あった
- ・ 日頃見ていた岩石が水冷破碎岩だと知りいろいろなことが学べた
- ・ わかりやすさの点で簡略化したとしても資料作りには限界がある
- ・ ファシリテーターがかみ砕いてくれたおかげで理解できた
- ・ 地元の地名や地理に引き寄せて初歩的に説明してくれるとよい

インタビュー結果の概要と今後に向けて⑦

【⑦ 進行方法・ファシリテーター】対話の場会員・委員

1. ご質問 項目	Q1. 進行方法は、偏ったりしていませんか。改善すべき点がありますか。 Q2. ファシリテーターがいたことで、新たな気づきが生れたり、対話は生まれましたか。	アンケート形式で実施
2. ご意見 の概要	1. 2自治体ともにファシリテーターを配置したことは、話しやすい環境づくりに寄与した。 2. NUMOの情報提供をかみ砕いて説明する媒介者としての役割をよいとする意見。	
3. 今後 に向けて	1. 新たな場づくりにおけるファシリテーターの役割 2. 難しい情報の翻訳・受け渡し役の配置の検討 ほか	

【アンケート】



【⑧ 公開制】対話の場会員・委員

1. ご質問 項目

Q1.議論の部分は、非公開ですが、話しやすいと感じますか。名前や職業等、個人の属性がわからないように配慮した上で議論の内容を公開すべき、という意見についてどう思いますか。
Q2.メンバー以外の町村民の方の傍聴や、町村以外の方への公開についてはどう思いますか。

2. ご意見 の概要

1. 2自治体ともにグループワークなどの議論の部分は、非公開のほうが話しやすいとしている。
2. 原則すべて公開すべきとする意見と、公開だと個人が特定されて話しづらいとする意見。
3. 議論や発言に関する不特定向けのライブ配信には、発言者やプライバシーなど配慮が必要。
4. 傍聴は町村民であれば公開してよいとの意見、町村外への一般公開には慎重な意見。
5. 課題：議論していることを積極的に発信し、もっと知ってほしいという意見。

3. 今後に 向けて

1. 参加者の意向に沿った公開のあり方
2. 効果的な情報発信の側面からの公開のあり方
3. 傍聴の対象者や範囲などルールのか考え方 ほか

【⑧ 公開制】対話の場合会員・委員による主なご意見

＜寿都町＞

(Q1.)

- ・ 関心のある町民が傍聴できるのであれば公開でもよい
- ・ ライブ配信は論外ではないか
- ・ 全面公開だと個人が特定されてあとから指摘を受ける懸念がある、みんな口ごもってしまうのでは
- ・ 10代の一般町民の参加を募った場合に、その発言を公開してしまうのは避けた方がよい
- ・ 全面公開になればもっと言葉を選んで話すようになる
- ・ 全国に議論の様子が配信されると知らない人によるSNS投稿などが心配
- ・ 情報公開の時代でもあり、全国で初めての事業なので全国の人に知ってほしいという気持ちもある
- ・ 傍聴を許可すると発言しにくい
- ・ 時代の流れで議論を公開すべき点は理解できるが小さい町なので誰が何を言ったかは自然に伝わってしまう
- ・ ライブ配信は活発な意見交換を妨げるのではないか
- ・ 公開の場で意見を言える人が参加すれば議論が活性化し町にも広がる

(Q2.)

- ・ 町も、傍聴に町民が来る場合も言葉を選んで話すようになる
- ・ 話したことが素直に伝わればよいが、違う意味で伝わってしまうのはよくない
- ・ 傍聴は否定的、反対派の傍聴者からのやじが出てしまうことが心配
- ・ 反対派の人は熱心なため、傍聴を許すと会場の雰囲気が悪くなる
- ・ 団体の代表者の発言は、団体みんながその考えだとひとくくりされる
- ・ 議論が終わったあとにまとめて町民に公開する形でよい

＜神恵内村＞

(Q1.)

- ・ 幌延や報道が冷静になってからはいまの公開方法で議論を見てもらっても違和感なく話せている
- ・ 公開によって参加してみようと思う人もいるかもしれない
- ・ 公開すると意見が賛成か、反対かに切り取られる恐れがある
- ・ 交付金の使途などの議論は公開したくない
- ・ グループワークの部分は非公開のほうがよりよい意見ができる
- ・ 村民への傍聴での公開はかまわない

(Q2.)

- ・ 村外から傍聴に来るのは関心の強い人でどんな人が来るかわからない
- ・ 岩宇4町村の人には公開して、人数制限する方法
- ・ 本当はすべてオープンにして理解を深めてもらわないとだめ
- ・ 一部の名簿だけ公開するやり方に違和感を感じる、ならば全て非公開にすべき
- ・ 村外の傍聴者が入ることには抵抗がある
- ・ 村外の傍聴の公開は傍聴者にもいろんな思惑があるので怖い感じがする
- ・ いまの対話の場がアットホームなのでこのままでよい

インタビュー結果の概要と今後に向けて⑨

【⑨ 結果の周知】対話の場会員・委員

1. ご質問 項目

Q.議論の結果は、町民や村民の皆さんに、伝わっていると思いますか。

2. ご意見 の概要

1. 2自治体ともに対話の場の議論の中身は、住民の皆さんには十分伝わっていない。
2. 課題：NUMOの発行するお知らせチラシは文字が多い、細かい、難しいなどの意見。
3. 紙資料やWEB媒体のみでは、十分に情報が届いていないとの意見。
4. 資料ベースではなく、対面での小規模説明会などの効果を挙げる意見。

3. 今後に 向けて

1. 議論の結果のお知らせ方法の工夫
2. 高齢者等に配慮した地域や地区に出向く形での対面での情報提供機会の検討（ほか

【⑨ 結果の周知】対話の場会員・委員による主なご意見

<寿都町>

- ・ 反対賛成の人が議論していて中間の人は話したがない
- ・ チラシには一般の町民は興味を示さないのでは
- ・ 新聞の折り込みも購読率が減っており効果が薄いのでは
- ・ 町民には議論の結果は伝わってない、内容が難しいのではない
- ・ 議論の結果は町民にもっとわかるようにしてほしかった
- ・ 賛成している人でもチラシは文字が小さいし、難しいので読めない

<神恵内村>

- ・ 村民には議論の結果は伝わっていない
- ・ 地区ごとのミニ集会や団体ごとの説明など、何か行事のあるタイミングで説明に来てもらう方法
- ・ チラシは配っても読まない、耳で聞いたほうがよい
- ・ チラシは目を通して中身が難しい、村のために何かしてくれていることは理解できる
- ・ チラシの中身はわからなくても事業や調査に関心のある人が一定数いるのはチラシのおかげ
- ・ チラシを配布しないと特定の人で何かしていると批判があるのでその効果もある

【⑩ 満足度・相互作用】対話の場会員・委員

1. ご質問 項目

- Q1.対話の場の参加後に、議論の結果を家族や知人の方に、お話する機会がありますか。
Q2.対話の場に参加して、他者の意見に触れて、考え方や意見に変化がありますか。
Q3.参加しづらい、行きたくないと思った時がありますか（それはなぜですか）。

2. ご意見 の概要

1. 2自治体ともに対話の場の議論の内容は、家庭内で会話する程度にて話す機会は少ない。
2. 課題：内容自体が他人に説明するのが難しい、持ち帰った資料も難しいという意見。
3. 同じ住民間であっても賛成、反対の意見が異なる間柄では会話の機会はないとする意見。
4. 対話の場に行きづらいと思ったケースは仕事や疲れ以外の理由ではほぼないとする意見。
5. 対話の場の参加による意見変容はほぼないが、新たな気づきや他者の気持ちに触れたという意見。

3. 今後 に向けて

1. 家庭や仲間、職場などで話題を広げていただくための工夫
2. 参加者が持ち帰った後にも活用できる資料やツール
3. 地域特性に応じた参加の継続をしやすい開催・スケジュール等の工夫 ほか

【⑩ 満足度・相互作用】対話の場合会員・委員による主なご意見

<寿都町>

(Q1.)

- ・ 聞いてくる人も少ない、関心が薄いのでは
- ・ 家庭内でも話さない
- ・ 対話の場の初回到議論がもめてしまったのは残念
- ・ 家庭内でも聞かれた時くらいしか話さない、あまり興味を感じていないのではないかと
- ・ 家内は幌延に見学に行った後は少し関心を持った様子
- ・ 配布される資料が難しすぎて、説明を受けずには理解するのは難しいのでは
- ・ 多少理解しているが、まったく知らない人に話をしても理解されないのでもって駄目
- ・ 地層処分という言葉は知っていても、その中身はまったく分からないので会話にならない
- ・ 反対派の人とはけんかになってしまうので会話はできない
- ・ 議論の結果を外で話してはいけないものと思っていた
- ・ 反対の意見の人とはあまり話をしない
- ・ 地層処分のような賛否のある事業理解を町で行うことは限りなく難しいのではないかと感じた

(Q2.Q3)

- ・ まちづくりを一生懸命やろうという町民の皆さんがいることが参加を通じて分かった
- ・ 後半のグループワークに入ってから議論が活発になった、多少公開してもよかった
- ・ 反対意見の人と議論を噛み合わせるのは難しい
- ・ 考え方は反対でも堂々と意見が言えて参加したい人を何人か公募で集めるほうがよかった
- ・ 地区ごとに何人か選定して数を増やす方法もある
- ・ 対面式は他者の意見はほとんど出ていない、まちづくりテーマのグループワークでは参加者同士話すようになった
- ・ (公開して) 話中に周囲を囲まれると、言葉を選んだり、気を遣わなければならない
- ・ 自由闊達に話せばよいがそうでない雰囲気を感じる
- ・ 学術会議のような中立な立場の話を聞けるのかと思ったが受入れられなかった
- ・ 慎重な立場の人がいなくなり参加するのが毎回辛かった

<神恵内村>

(Q1.)

- ・ 家庭内では話をすることがある
- ・ 議論の結果を家族で話したりもしない
- ・ 議論の中身を話すことはほとんどない
- ・ 議論の内容を村内で話すことはない、説明するのは難しい

(Q2.Q3)

- ・ 初めは嫌だなと思いながら理解が進んだことで楽になった
- ・ 他者の意見に触れて考え方や意見に変化はあった
- ・ 疲れや仕事など自分都合はあるが、対話の場が嫌で行きづらと感じたことはない

インタビュー結果の概要と今後に向けて⑪

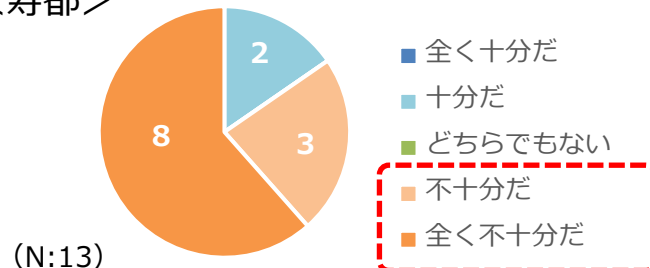
【⑪ 設置者・国・NUMOの関与のあり方】対話の場会員・委員

1. ご質問項目	Q1.場の設置者は、町（村・NUMO）でしたが、町の関わりはどのように感じますか。 Q2.事務局は、NUMOでしたが、NUMOが担うことに対し、どう思いますか。 Q3.国の関わり方に対し、どう思いますか。どんな時に、なぜそのように思いますか。
2. ご意見の概要	1. 自治体の「対話の場」への関与は、現状の関与度ではやや不足感がある。 2. NUMOが事務局を担ったことは、専門性やリソースの観点から概ね問題とされていない。 3. 自治体のまちづくり議論でのグループワークへの参加や町村民説明への役割などの意見。 4. 第三者機関による事務局運営のほうが賛否問わず受容性が高いとの意見。 5. 国は国民への説明や他地域への働きかけなど全国的な視点での責任を要望する意見。
3. 今後に向けて	1. 人的リソースなど地域事情に合わせた自治体の役割とNUMOによる連携・支援 2. 文献調査期間中の中立・公正、透明性のある事務局運営のあり方 3. 地域ニーズなどを受け止める国との連携のあり方 ほか

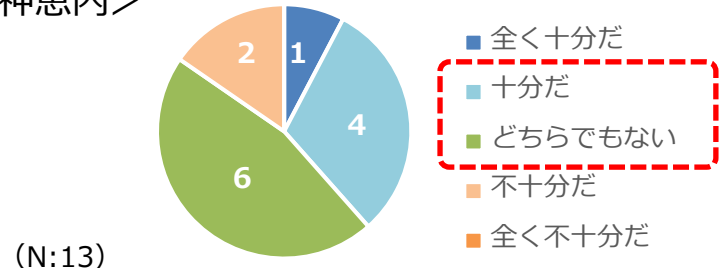
【アンケート】

Q.国の関わり方について、どう思いますか。どんな時に、なぜそのように思いましたか

＜寿都＞



＜神恵内＞



※自由記述は、p48に掲載

【⑪ 設置者・国・NUMOの関与のあり方】対話の場会員・委員による主なご意見

<寿都町>

(Q1.)

- ・ 調査開始後にNUMOが前面に立つのではなく、町も説明などで前に出てきてほしい
- ・ 対話の場の人選の観点でも町の関与は必要
- ・ 対話の場で町の姿は見たが、町の関与は感じない

(Q2.)

- ・ 対話の場の事務局はNUMOでよい
- ・ NUMOは専門性の意味で、質問に対する回答などNUMOが情報提供することでよい
- ・ NUMOは電力会社に見えてしまうので海外のような第三者機関に運営させる方法
- ・ 法律にNUMOが担うことが決まっている
- ・ NUMOは電力会社からの派遣だから地層処分事業でも分断が起きてしまう
- ・ 科学的な説明も第三者の中立的な機関が必要

(Q3.)

- ・ 国は積極的に取組んでいないのでは
- ・ 地層処分を国民全体の課題として認識させてほしい、北海道だけの問題になっている
- ・ 法律や現在の動きなど国の情報提供がもっとあってもよかった
- ・ 国の顔が見えるような進め方をしてほしい
- ・ 地層処分は国際的な方法で日本だけが進まないわけにはいかず、国民全体の課題として認識させてほしい
- ・ 国がもっと積極的に関わってもよい
- ・ 国はもっと真剣に関与してほしい
- ・ 国の場への参加は参加者が監視されているようで難しいのでは

<神恵内村>

(Q1.)

- ・ 村の職員の関与は少ないのはもったいないが、行政の介入と取られたりするのであればいまの形がよい
- ・ 村が設置者として関わる必要はない
- ・ 地域振興の議論では役場の話も聞いてみたくないのでNUMOと村の共同事務局のままでよい
- ・ 調査の応募したのは村なので事務局として関与して当然
- ・ 村の職員もテーブルワークに入ったほうが話ができる

(Q2.)

- ・ 村民が担うよりNUMOが事務局でよい
- ・ 海外のように第三者機関が担うのは理想ではある
- ・ 第三者機関が担う方法
- ・ 文献調査段階では第三者機関までは不要
- ・ 第三者機関で有識者が運営する方法もある
- ・ NUMOが誘導したりすることはなかった

(Q3.)

- ・ 手を挙げた自治体を国がもっと積極的に守ってほしい
- ・ 調査に手を挙げるのはすごい勇気がいること
- ・ 知事会や市町村長会などで大臣がこの問題へ理解を得ることを示してほしい
- ・ 反対なのに何も来もしない、知事には対話の場を見に来て地域の声を聞いてほしい
- ・ 国策であれば日本中の問題として国がもっと地方に働きかけてほしい

【⑫ 地域における位置づけ】対話の場会員・委員

1. ご質問 項目

- Q1.対話の場は、地域の人たちにとって、どのような場だと思われていたと思いますか。
Q2.文献調査期間中に必要な対話の場とは、どんな場だと思いませんか。

2. ご意見 の概要

1. 2自治体ともに場の開催は知られているが、何の目的の場か受け止められ方は多様。
2. 課題：住民の一部の人だけが参加する場、参加イコール賛成としてやや遠い存在と捉えられている。
3. 基本的な理解のための情報提供の場、まちづくりや地域振興を議論する場との意見。
4. 課題：何でも話し合え、いろいろな人の意見が聞ける場が必要との意見。
5. 必ずこうした場は必要だが、そのあり方や内容は文献調査の実施地域ごとに決めていけばよいとの意見。

3. 今後 に向けて

1. 文献調査をきっかけに地域が望む、望まれる対話の場のデザイン
2. 場のひながたやテーマなど住民の意向をくみ取った選択肢の提示
3. 地域の特性や意向にあわせた柔軟な設計と支援 ほか

【⑫ 地域における位置づけ】対話の場会員・委員による主なご意見

<寿都町>

(Q1.)

- ・ 対話の場は町が選んだ一部の人が話し合いをしている場
- ・ 勉強会や説明会の場
- ・ 町民のなかで知らない人は対話の場で勝手に議論していると思っている人もいる
- ・ まちづくり議論は、交付金とセットでまちづくりへの協力が概要調査とセットに見えるのではないか

(Q2.)

- ・ N U M O 職員が町民と日常的な関わりがもっとあったらよかった
- ・ 気軽に対話するのは難しいので、同じ意見同士の人で固まりつつディベート形式にする方法
- ・ まず地層処分に関する基本的な理解がないと、次の段階の調査への賛否の判断もできない
- ・ 賛否に関係なくN U M Oと一緒に町がもっとリードしてもよいのでは
- ・ 第三者を入れるほうが反対派の人の関与や納得が得やすいのではないか
- ・ 最初の住民説明会は多くの住民が参加し関心が高かった
- ・ 自分の意見が言えてオープンな場になると住民も行く気になる

<神恵内村>

(Q1.)

- ・ 対話の場に参加するだけで外部からは賛成と思われる
- ・ 対話の場がなにか、何をしているのか分かっていない人がほとんど
- ・ 説得される場や賛成する人が集まる場とは思わない
- ・ 世代、男女など地域の人いろいろな意見が聞けるような場づくり
- ・ 大きな規模の都市ではひとつにまとめるのは難しいのではないか
- ・ 1回目に議論して原点となる会則を定めることは大事
- ・ 対話の場のことはほとんど聞かれない

(Q2.)

- ・ 他地点でもこうした対話の場は必ず必要で地域の人が集まってよい方向に持っていけばよい
- ・ 賛成、反対の人は集まって対話の場を開いても最後まで対話にならないのでは

【⑬ その他視察等】対話の場会員・委員

1. ご質問 項目

Q1.見学や視察、その他活動は、皆さんの地層処分の安全性に関する考えにどのような影響を及ぼしましたか。
また、地層処分事業について、理解を深めることにつながるものでしたか。
Q2.対話の場の運営について、国やNUMOに何か伝えたいことがあれば、お願いします。

2. ご意見 の概要

1. 2自治体ともに視察・見学は、理解にとっても役立ったとしている。
2. 課題：視察・見学の参加者は一般町村民からも募る取組を広げるべきとする意見。
3. 賛成・反対の意見同士の参加者が一緒に視察に行くと効果的との意見。

3. 今後に 向けて

1. 知りたい、学びたいを支援する視察・見学の企画、運営
2. 賛否両方の意見を聞く機会など多面的学習の機会の検討
3. 多世代の住民の皆さまが視察・見学の参加が可能な工夫 ほか

【⑬ その他視察等】対話の場合会員・委員による主なご意見

＜寿都町＞

(Q1.)

- ・ 視察・見学はよかったが参加者が一部に限られたことが残念
- ・ 町民にも自由に公募で行けるとよかった、一部の参加者のみで参加した人も言いにくい雰囲気があった
- ・ 公募で誰でもいけますとしておけばもっと違ったかもしれない
- ・ 視察・見学はいままで想像していたものとは違って勉強になった
- ・ 自分の目で見て触れることで積極的に議論に参加できるようになった、もっと多様な人が視察にいくべき
- ・ 視察・見学は一般町民に公募すべき、一部の人を秘密裏に選定しているようなやり方はよくない
- ・ 視察・見学は全額自己負担ではなく、一部負担などであれば参加の勉強への熱意も伝わるのではない
- ・ 反対派の人も視察・見学に連れていき、視察後に振り返りなどの時間を設けておくとう有効では

(Q2.)

- ・ 文献調査は2年の約束が3年に伸びてしまいやる気を感じない
- ・ 文献調査は国が選定して申入れをするほうが早いのでは
- ・ 対話の場合以外でも町民にもっと情報提供や交流を深めることで知っていただくきっかけになるのでは
- ・ 視察見学ではなく旅行に行ってきたというだけではないか
- ・ 能登地震の能登半島や胆振東部地震もマップで緑だが説明がない
- ・ (文献調査の応募は) 住民の話し合いなく申し込めるので分断が起きている
- ・ 若者には推進派と慎重派両方の話を聞かせるべき
- ・ 若者には偏った意見だけで判断させてはいけない

＜神恵内村＞

(Q1.)

- ・ 視察・見学は百聞は一見にしかず、安全性を確保するのにあそこまでやるのかという印象
- ・ オーバーパックの実物は1000年以上もつものでは、研究者や作業員の頑張りをみて自分も勉強しなくてはと思った
- ・ 子育て世代は視察・見学に参加できていない

(Q2.)

- ・ 対話の場は円滑に進められている
- ・ スケジュールの主導権を対話の場合委員にするのか、主催者側にするのかバランスをとる必要
- ・ 北海道以外の文献調査候補地をぜひ見つけてほしい

【① 地域における位置づけ】

1. ご質問 項目

Q1.対話の場について、どのような目的で開かれる、どのような性格の会議として、捉えていましたか。

2. ご意見 の概要

1. 住民からは地域のリーダーや主に男性が参加して地層処分事業について意見交換や勉強する場などと認識されている。
2. 人選の経緯や非公開、議論の中身が十分に伝わっていない点などから、事業を推進するための場、など開かれた場とは捉えられていない。
3. 課題：対話の場の目的は、出席経験のない住民の皆さまには十分伝わっていない。

【② 結果のお伝え】

1. ご質問 項目

Q1.議論の結果（地層処分や文献調査）は、町村民の皆さんに伝わっていると思いますか。
Q2.対話の場のお知らせは、どんな内容だと興味を感じますか。

2. ご意見 の概要

1. 議論の結果は、住民の皆さまに広くお届けできていない。特に高齢者の方々へは、現状のお伝えの仕方では、十分にお届けできていない可能性。
2. 文献調査開始から3年が経過し、2自治体ともにやや関心が低下しているとする意見。
3. 住民は関心はあるので、賛否の意見を両方掲載する等の関心を高める、伝わる工夫の必要性に関する意見。

【① 地域における位置づけ】 主なご意見

＜寿都町＞

- ・ 開催は知っているが議論の中身は聴いたことがない
- ・ 反対の意見の人は参加していないのでは
- ・ 産業団体のリーダーが意見交換を行う場
- ・ ケーブルテレビで見ても背中しか見えない、議論の中身が伝わってこない印象
- ・ 参加者が家庭や町で議論したことを伝えていない
- ・ 男性にお任せの側面があるので、女性が参加する場をつくってもらうことはよい
- ・ 寿都のまちにとって処分場建設がよいと周囲の人たちと話し合うこともある
- ・ 話し合うのは同じような考え方の人が多く反対の意見の人と話しあうことはない
- ・ 賛成か、反対か誰がどの意見であるか分かるので、話は避ける
- ・ 3年たって漁師さんなど、当初から考え方が変わってきたことも実感する
- ・ 過激に反対していた人が少なくなっていまでは一部でしか聞かない
- ・ 核イコール拒絶だったが、見学に行き勉強になり、そんなに恐ろしいものでもないことが分かった
- ・ 地層処分を進めている自治体を国が発信することを言い聞かせるパフォーマンスの場
- ・ 交付金で財政のためになるのであれば黙っていようという意識からスタートしてしまったのでは
- ・ 会員の選定過程や議論も非公開でプロセスが隠されて結果だけ示されても不信に感じてしまう
- ・ いろいろなことを守ろうとしたために、町民には伝わらないものになってしまっていないか
- ・ 対話の場の非公開が一番の問題
- ・ 会議というよりまず地層処分を知ってもらう場
- ・ 秘密裏に進めたりすることはやめてほしい
- ・ 真剣に核のごみの問題を国が考えるのであれば、日本で初めての事をやってほしい
- ・ 参加者に年配の男性しかいない印象
- ・ 閉鎖的で説得の場、人選に問題がある
- ・ 町民に地層処分事業について一層分かっていたくための場
- ・ 場を通じて全国に発信して他自治体の応募も促すような状態を作りたかったのではないか
- ・ 団体の長で寿都をどうするのか事業を進展の是非などを議論する場
- ・ 寿都の長らがどう考えているか一般町民は知りたい

＜神恵内村＞

- ・ 放射性廃棄物問題や関連する産業などを情報交換する場
- ・ 内容をかみ砕いてくれてわかりやすく学ぶ場
- ・ 村のまちづくりについて意見が聞けたのは面白かった
- ・ 賛否を問わず意見を交わしたり知識を深める場
- ・ 事業を推進するための語りの場の要素が強く感じた

【② 結果のお伝え】主なご意見

<寿都町>

(Q1.)

- ・ 議論の結果は町民には伝わっていない、参加者も伝えていない
- ・ 団体の長が所属の団体内で意見の賛否があるので議論の結果を話していないのでは
- ・ 組織を背負っている団体の長より一般町民が参加したほうが話づらいこともないかもしれない
- ・ 対話の場のような堅い形式ではなく、地域の人自由集まれる方法
- ・ 勉強会も町民には知られていない、NUMOが何をしているかもわかっていない人もいる
- ・ 映像もテロップを読むのは疲れるのでチャンネルを変えてしまう
- ・ 音声がないので、ふせんが貼られていてもわからない
- ・ 対話の場の議論の中身そのものは伝わっていない
- ・ オープンで開かれた場にしないと町民に伝わっていかない
- ・ 町民も現会員に丸投げしてしまっている側面があり、意見をいう必要もないだろうという雰囲気
- ・ 地層処分・文献調査はなにかは伝わっていても対話の場の議論はうまく伝わっていない
- ・ 反対派は退会したのに賛成者だけで話を進めていると話がすり替えられているのは気になる

(Q2.)

- ・ 町のホームページは見ない、高齢者が多いのでインターネットは開かない
- ・ 反対派が新聞に折り込んで配っているチラシはよく目につく
- ・ 町民も無関心ではないがどうやって知らせるか工夫が必要
- ・ 町民もこの町をよくしたいという気持ちは一緒
- ・ 概要調査に向けてまちづくりなど希望を持って意見交換できる賛成の人が集まれる場
- ・ NUMOの事務所に入るのはハードルが高い
- ・ 集まって話すならNUMOの事務所ではなくフリースペースのほうがよい
- ・ お年寄りがチラシを読むのは難しい、気楽に話ができる場所のほうがよい
- ・ 地域に密着して話し合いの場を持つ方がお年寄りには伝わりやすい
- ・ 賛成、中立派、反対さまざまな意見を載せてあれば興味が湧くのではない
- ・ チラシは賛成の人にはほとんど読まれていない
- ・ 一般住民には内容が伝わりにくく、情報の鮮度が落ちてきて興味が薄れている

<神恵内村>

(Q1.)

- ・ 議論の中身は村民には伝わっていない
- ・ 3年が経過して関心が薄れてきているのでは
- ・ 団体の長でも大小があり個人でも参加者はなかなかいないので、代表者が参加し持ち帰って話を広げてほしい
- ・ NUMO職員が全戸訪問で地道にお知らせをして回っていることはよく見ている

(Q2.)

- ・ 現在の公開の方法でよい、活字でまとめて出すことでよい
- ・ 参考文献や書籍などの紹介があるとチラシも見えてみたくなる

【③ 公開制】

1. ご質問項目

Q1.対話の場に参加や傍聴してみたいですか。公開する場合、どこまで公開すべきと思いますか。
Q2.対話の場がどのような場であれば、自分も参加してみたいと思いますか。
Q3.対話の場の参加者の構成や進め方、町村民の皆さんへの情報提供について、どのような御意見をお持ちですか。

2. ご意見の概要

1. 傍聴が可能であれば参加してみたいとの意見。隣接する自治体の住民の皆さまにも公開してもよいとする意見。
2. 参加者を増やす方法・アイデアにはさまざまな意見がある。公募、意見バランス、中高生、匿名による参加、無作為抽出など。
3. 課題：住民の皆さまへの広がり点では、組織・団体の長のみならず、一般の住民の方々にも参加していただく形を望む意見。

【④設置者、国・NUMOの関与】

1. ご質問項目

Q1.事務局はNUMOでしたが、NUMOが担うことに対し、どう思いますか。
Q2.国の関わり方に対し、どう思いますか。どんな時に、なぜそのように思いますか。

2. ご意見の概要

1. 事務局はNUMOでよいとする意見と、誰からも中立的な立場として第三者機関による運営のほうが納得性が高いとする意見。
2. 第三者機関の場合は、新たな組織が地域に入ることに対する懸念を示す意見。
3. 国の関与が十分伝わっていないとする意見。

【③ 公開制】主なご意見

<寿都町>

(Q1.)

- 参加して皆さんの意見や気持ちを聞いてみたい
- 反対の意見も寿都のまちをどう考えての反対なのかを聞いてみたい
- 寿都、島牧、黒松内の近隣町村の方には公開してよいのでは
- 傍聴して発言を聞いている人を観察してみたい
- 公開制をとるのであれば一部ではなくすべて公開していくのがあるべき姿
- 全部公開してもよいが、小さい町では発言と個人が特定されてしまうのが心配
- ライブ配信の場合はノーカットすべき
- もっとオープンに公開すべきだが、マスコミまで入ると意見が切り取られる懸念
- 公開はせずに、文字起こしでの発信が限界では

<神恵内村>

(Q1.)

- 議論の中身は村民には伝わっていない
- 3年が経過して関心が薄れてきているのでは
- 団体の長でも大小があり個人でも参加者はなかなかいないので、代表者が参加し持ち帰って話を広げてほしい
- N U M O職員が全戸訪問で地道にお知らせをして回っていることはよく見ている

【③ 公開制】（つづき）主なご意見

<寿都町>

(Q2.)

- ・ 時間があえば参加してみたい
- ・ 意見が対立するわけでもないのに、参加しても構わない
- ・ 寿都では立場のある人のみが参加しているので町民には伝わらない状態が続いているのでは
- ・ 現在の構成員に加えて人数を増やした方がよい
- ・ 町民の参加など人数を増やしたほうが理解が広がるのではない
- ・ 対話の場という名前が堅すぎる
- ・ 現在の対話の場と異なる場がもうひとつあってもよいのでは
- ・ 場に参加するのは男性のみと考えてしまうので、女性も参加できる場や勉強会は必要
- ・ 団体の長による構成が参加しづらい環境になっていないか、参加しない会員の空席は無駄ではないか
- ・ 参加者を町民からアトランダムに公平に選ぶ方法
- ・ 参加者は公募で選び、賛成、中立、反対意見バランスに配慮する方法
- ・ 中高生も参加できる機会づくり
- ・ 町民の参加を募る場合は、匿名とする方法
- ・ 町で町議会議員を指名してもよいが、一般町民も参加したい人は参加すべき
- ・ 町の勉強会は意見交換しやすい雰囲気だが、対話の場は発言しづらそうで参加したくない

(Q3.)

- ・ 公募がなかったことが対話の場に対する最初の不信を生んだ原因ではないか
- ・ 地層処分に批判的な意見を持った有識者を招いてほしかったがなぜ実現しなかったのか
- ・ 第三者が入るのであれば、全体を監査するのが第三者の役割
- ・ 町の指名、議題の決め方はこのままでよい
- ・ トップダウンで指名しないと自分から出たい人はなかなかいないのではない

<神恵内村>

(Q2.)

- ・ 傍聴者の数はもっと増やしてよい
- ・ 村民のうち20人だけ勉強しても村民には理解が広がらない、町内会に出向く説明の場を継続してはどうか
- ・ 活発な意見公開をするためにはいまの公開のあり方でよい

(Q3.)

- ・ 対話の場にも村外から傍聴に来て視察に来てほしいくらいだ
- ・ 村民全員が委員という使命を掲げるくらい、テーマごとに集める人を変えて入ってもらう方法
- ・ 中学生の意見なども面白いかもしれない
- ・ 調査地域の当事者には、消費者の視点や日本の豊かさは原子力のおかげのような説明の入り方は違うのではない
- ・ 神恵内に永住するわけでもないのに地域のために何でもしますという言い方には違和感を感じる
- ・ 対話の場は議論の場に慣れた人が参加しないと会の趣旨に反する方向になってしまう
- ・ 村民の方を公募で何回か募集している方法でよい
- ・ 賛成、反対の有識者による対論は非常に評価できる

【④ 設置者、国・NUMOの関与】 主なご意見

＜寿都町＞

(Q1.)

- 新たな第三者が地域に入るよりNUMOが事務局でよい、顔が見えるほうがお年寄りが安心できる
- 地域ごとのやり方で、地域の人を選べばよいのでは、こうだと決める必要はない
- ファシリテーションを専業とする第三者団体が運営を行いNUMOは情報提供者であるほうが透明で納得が得られる
- 町とNUMOの運営では、中立は保てないので第三者機関が運営する方法
- NUMOが事務局でよい
- NUMOが事務局で異論はない

(Q2.)

- 国がどのように関わっているか分からない、積極的に関与してほしい
- 国は他人事ではなく事業の推進主体として積極的に関与すべき
- 国は町民を説得できるようにもっと前に出てきてほしい、町長が頑張っているのとやや温度差がある
- 手挙げ方式では何年も変わらないのでは、地点の選び方を変えていくべきなのは

＜神恵内村＞

(Q1.)

- NUMOが事務局となり情報交換や勉強を重ねられていることはよい
- 進行はどこにも属さない第三者の組織がやる方法
- 第三者機関のように中立的な立場の人を運営に入れるべき
- 地上保管の話などNUMOとは異なる説明や知識が入ってくるような機会を工夫してほしい
- NUMO職員は一生懸命、地域に密着して溶け込もうとしてやっている
- 対話の場立ち上げ時に住民の情報を活かして進めていくことがはじめにできていなかったのでは
- 対話の場とは本来どうあるべきだったのか疑問に思う

(Q2.)

- 国や道経局の関与は現在の形でよい
- 国が積極的に関与していることが村民にも伝わるとよい
- 開始時に地域住民を大事に思うなら、村、議会、国、NUMOがもっと配慮してほしい

【⑤ その他視察等】

1. ご質問
項目

- Q1.見学や視察、その他活動は、皆さんの地層処分の安全性に関する考えにどのような影響を及ぼしましたか。
また地層処分事業について、理解を深めることにつながるものでしたか。
- Q2.どんな活動やイベント、あるいは工夫があれば住民の方々が参加しやすくなるでしょうか。
- Q3.対話の場の運営について、国やNUMOに何か伝えたいことがあれば、お願いします。

2. ご意見
の概要

1. 視察・見学は、対話の場に出席されていない一般の町村民、勉強会メンバーなどの皆さまにもご参加をいただいたことから、施設や周辺のまちづくりを実際に視察・見学して勉強になったとの意見。
2. 視察・見学は、より広く町村の住民の皆さまにも参加していただく取組を広げることが重要との意見。
3. 賛否両方の意見の参加者を一緒にして、共に勉強してはどうかとする意見。
4. 事業者による一方的な説明ではなく、慎重な意見の有識者の同行や多様な意見をお持ちの地元住民の方との交流を望む意見。

【⑤ その他視察等】 主なご意見

＜寿都町＞

(Q1.)

- ・ 視察・見学で安全性について体感することができた
- ・ 視察で町が発展していくイメージを掴むことができた
- ・ 最初は怖いイメージがあったが実際には安全性の研究は思っていたのとは違った
- ・ 視察・見学の際にも批判的な有識者を同行させる方法
- ・ 視察・見学も推進、慎重の両意見の人が同行して両方の話を聞くなどの方法
- ・ 他の視察・見学の企画では地元の慎重派の住民の話を聞いて両方の意見を聞いた
- ・ 視察・見学は理解を深め、勉強しようという気にさせた
- ・ 旅行感覚ではなく視察・見学は本当に興味がある人が行くべき

(Q2.)

- ・ 新たに移住した方や働く世代や子を持つ世代が参加できる場
- ・ 興味のない人を無理に視察・見学に参加させるのは難しい

(Q3.)

- ・ 個々には視察・見学や勉強してこれたが、町民全体への理解という点では足りなかったのではないかと
- ・ 対話活動もいろいろトライしてダメだったら直していけばよいのでは
- ・ けんかするわけではないので意見の違う人との対話の機会もあってよい
- ・ 視察・見学に行った人が、賛否関係なく振り返りを行う場も必要
- ・ 分断はないというが分断が起きている
- ・ 事業者は反対の意見にも耳を傾けて、受け入れるキャパシティを持ってほしい
- ・ 情報提供は偏っていて納得できていない

＜神恵内村＞

(Q1.)

- ・ 神恵内は人口減少で経済が生まれにくいことが危機、岩宇周辺4町村で協力して進めたい
- ・ 視察・見学の際に地元の人と情報交換してみたい
- ・ 視察・見学は百聞は一見にしかずで大変な勉強の機会になった
- ・ (風評や放射線知識など) 正しい理解が得られるようにしてほしい
- ・ (多数決で議会で承認・請願できたとしても) 住民が十分納得できていない部分が残る

(Q2.)

- ・ 対馬の人らがどう思っていたのか聞いてみたい

(Q3.)

- ・ 住民がどの程度理解しているのかアンケートをとってはどうか
- ・ 委員の意見が全てではないが、知識もなく理解も深まっていないので地域の意見をどうとりまとめるのか
- ・ 団体の長であっても場の意見はあくまで個人であり団体を代表した意見ではないことに留意
- ・ 毎月負担感が強い、3か月に2回程度が妥当、必要に応じて臨時に開くなど
- ・ オブザーバーで意見の異なる有識者を呼ぶことはできないか
- ・ メリット・デメリットの片方だけでは誤った理解を住民に与える(両方必要)

【⑥ その他（寿都町の将来に向けた勉強会）】

1.ご質問 項目	Q1. 町の将来に向けた勉強会は、参加してどうでしたか。よかった点、もう少しこうしたいと思う点は、ありますか。 Q2. 町の将来に向けた勉強会は、皆さんの地層処分の安全性に関する考えにどのような影響を及ぼしましたか。また地層処分事業について、理解を深めることにつながるものでしたか。
2.ご意見 の概要	- 勉強会への参加は、賛否両方の立場の住民同士で対話できてよかったとの意見。 - 一部に視察・見学先など対話の場で実施したものとの差異や不足感を指摘する意見。 - まちづくり議論では賛否を超えて同じ目線で議論できたとする一方、まちづくり議論は地層処分事業の一環として話し合う機会を持つことと切り離すべきとの意見。

【⑥ その他（寿都町の将来に向けた勉強会）】 勉強会メンバー皆さまの主なご意見

<寿都町>

(Q1.)

- 対話の場と勉強会で内容面で格差ができていたのは不満
- 福島第一の視察が実現しなかったことは残念
- 都合が悪いことは見せないという状況は信用をさらになくす原因
- 勉強会は慎重な意見の人とテーブルでお互いの話を聞いたことがよかった
- まちづくりでは同じ目線で議論ができ、お互いの意見や立場も理解できたことは称賛に値する
- 勉強会に参加して理解が深まり、人に話せるようになった
- 勉強会は知り得ないような情報、自分では調べないだろうという情報が提供された
- 賛成、反対の両専門家による対話の場を聞いてみたかった

(Q2.)

- 地層処分とまちづくりは別モノなので、勉強会でも分けて議論する方法もあった
- まちづくり議論とは切り離して純粋に原子力政策を勉強した方が、お金の話がちらつかなくてよいのではないか
- 安全性に関する考え方は理解できたが、絶対ではないのでいろいろな情報に接触するとわからなくなる

今後に向けたNUMOとしての受け止め【継続検討中】

- 今後に向けて3つの視点・5つの観点（場づくりの際の大事なポイント）にて、インタビューを踏まえたNUMOとしての受け止めを整理。

視点1 対話の場のデザイン

- 寿都町と神恵内村では、参加されている会員・委員の皆さまに議論いただいた会則やルールの下に対話の場を進めてきたことや、第三者的なファシリテーターを進行役としたことが、話しやすい場づくりを下支えしたとの声を頂いている。対話の場の設置においては、場のデザインが重要と考えており、今後の地点においては、NUMOは対話の場の設置に当たって、対話の場のデザインの重要性について、関係住民及び地方公共団体と認識を共有しながら進めていく。
- これまでNUMOは、2自治体とそれぞれ緊密に連携しながら事務局の役を担ってきた。NUMOが事務局を担うことは、会員・委員をはじめ地域の皆さまにも概ね受け入れられていると認識している。
- ただし、賛否によらない多様な住民の皆さまの参加を実現するという観点からは、第三者的な中立的な方法での運営を望む声もあり、今後の地点において、運営のあり方を検討する際の課題として受け止めている。
- また、参加する委員の構成や選定方法に不満を感じるとの意見も多く寄せられており、今後の対話の場のデザインの際には、対話の場の関係者とこの点について十分留意して相談・検討することが必要と考える。

視点2 対話の場の運営支援

「対話の場」設置の際に大切にしてきた5つのポイントの観点から整理する。

観点①：参加者の意向を尊重しているか

- 寿都町と神恵内村では、参加者の意向の尊重は、対話の場や勉強会運営・支援の基本方針として取り組んできた。
- 寿都町では、対話の場でのご意見をもとに、町民の皆さまが参加する勉強会の設置を支援してきた。また、自治体と運営について相談しながら進めてきたが、慎重な意見の専門家との対論など一部のテーマがまだ取り上げられていない点は課題として受け止めており、現在検討を進めているところ。神恵内村では、対話の場の委員から選出された委員による運営委員会において、事前に議題の検討などを行うことがルール化しており、このことが地域の皆さまの意向を反映した運営・改善につながっているものと認識している。

観点②：（地層処分事業受入れの）合意形成の場ではない

- NUMOは、対話の場において文献調査の状況等について情報提供するとともに、会員・委員の皆さまの知りたい疑問、不安・心配事にお答えし、安全性への考え方や技術的側面、他国での状況など基礎的な情報提供を行ってきた。
- ご質問等への速やかな回答や一人ひとりの意見に耳を傾け、この意見を尊重する姿勢を基本として取り組んできたことにより、賛否によらず会員・委員の誰もが意見交換できる場づくりはできているものと認識している。

観点③：公平性、中立性の担保

- 公平性の観点では、参加者一人ひとりのご意見をグループワークの最後に全体共有するなど、賛否によらず公平な取扱いを心掛けてきた。議題の決め方については、参加者の意向をもっと吸い上げるような場づくりをすべきとの意見もあり、今後の課題として受け止めている。
- 中立性の観点では、進行役に第三者のファシリテーターを配置したことは、意見の公平な取扱いや自由闊達な意見交換の場づくりに貢献できているものと認識している。

観点④：透明性、公開制の確保

- 参加者の意向に配慮しつつ、ライブ配信、地元CATV、個別訪問等の情報公開を進めてきた。ただし、高齢の方を含む住民の皆さまにアクセスしていただけるような対話の場の公開のやり方や情報発信の方法などについては、今後の課題として受け止めている。

観点⑤：議論の内容の共有

- 議論の結果が、住民の皆さまに十分に伝わっていないとのご意見については、お伝えの方法など今後の課題として受け止めており、自治体当局と相談・検討することとしたい。

視点3 地域の皆さまとのつながり

- 視察・見学やジオ・ラボ号などより詳しく知っていただく機会を提供できているものと認識している。ただし、視察・見学を含めてより多くの町村民の皆さまに参加いただける機会を周知する取組については、今後の課題として受け止めている。

取りまとめ方針（案）

- 今後の文献調査自治体内外での地域対話の充実に向けた留意事項の取りまとめに向けて以下の方針（案）にて進めていく。

【取りまとめに向けて】

項目	内容
目的	◎ 調査実施自治体内外において地域対話を進める際の参考となるよう「対話の場」等に関する経験や教訓、留意事項を整理すること。
前提	・ 「対話の場」等の設置の際には地域の意向の尊重が大前提 ・ 基本方針（令和5年4月28日閣議決定）では関係住民及び地方公共団体が「対話の場」の設置者、それを国・機構が支援 ・ インタビューでも地域特性にあわせて設置すべきとのご意見あり
用途	・ インタビューで得られた地域の多様な声から、<u>場づくりの際に参考となるポイントや課題を洗い出し、それらを場づくりの際の「留意事項」としてまとめる</u> ・ 北海道2自治体での実績や経験を盛り込み、<u>場の設置者が参照できる資料の取りまとめを目指す</u>
進め方 （案）	・ 第3回小委員会後、事務局で素案を作成 ・ 素案に対して第三者専門家より助言・アドバイスを得る ・ <u>「報告書（案）」を次回小委員会に報告</u> ・ 議論を踏まえて最終報告案を取りまとめ
形式	報告書形式

- 新たな「対話の場」等の地域対話の実践に向けた留意事項を盛り込み、検討の際に参照できる資料の取りまとめを目指す。

【目次（案）】

1. はじめに
2. 振り返りの目的と進め方
 - 2.1 振り返りの目的
 - 2.2 振り返りの進め方
 - 2.3 検討の経緯
 - 2.4 インタビューの実績
 - 2.5 第三者専門家
3. 「対話の場」とは
 - 3.1 「対話の場」の位置づけ
 - 3.2 設置の際の5つのポイント
 - 3.3 寿都町「対話の場」
 - 3.4 神恵内村「対話の場」
4. インタビューによる振り返り：寿都町・神恵内村
 - 4.1 場づくりについて
 - 4.2 議題の設定
 - 4.3 形式
 - 4.4 参加者の構成
 - 4.5 開催頻度・タイミング
 - 4.6 情報提供
 - 4.7 公開性
 - 4.8 結果の周知
 - 4.9 満足度・相互作用
 - 4.10 設置者、国・NUMOの関与のあり方
 - 4.11 地域における位置づけ
 - 4.12 その他（視察・見学などの活動等）
5. ファシリテーターによる振り返りのまとめ
6. インタビューを踏まえたNUMOによる受けとめ
- 7. 新たな「対話の場」等の地域対話に向けた留意事項**
8. 第三者専門家からの助言・アドバイス記録
9. おわりに

Q.地域の皆さまの見たい、知りたい、勉強したいというご要望に応じたNUMOの対応について、どう感じましたか。

【対話の場現会員の方（寿都町）】

（十分だ）

- ・ 聞きたいことは対応いただいている、もっとNUMOと住民とを交えた話し合いの場ができるといい（不十分だ）
- ・ 特に無し自分達からの発信しかない広い立場で意見を知らせる姿勢が欠けている
- ・ 住民にわかりやすい説明ができるかは難しいが、現状のままでは理解が深まっているかは疑問

【現在出席されていない方、非会員の方（寿都町）】

（十分だ）

- ・ 現状、町民の声をしっかり受け止めていると感じる。様々な要求に対しての見解や資料提示など、丁寧な対応に満足。まちづくりには大変興味があり自身は多くの視察に同行できており、今後の議論に役立つと考えている。今後も視察の機会を多くしてほしい
- ・ 20年11月25日以来、NUMO寿都町担当と町民と一緒に課題に取り組む姿勢は伺える。インタビュー方式で率直な意見を聞くことは良い、賛成派と一緒にだったため、反対派の意見が聞けなかった（全く不十分だ）
- ・ 福島第一発電所および語り部の視察を先送りし続けていること。まちづくりの勉強にあたって、有識者の参加要望が実現していないこといつの間にか各原子力関連施設への視察が行われており、特定の人間に声がけしているようにしか感じられないことが何度かあった。視察が企画されるごとに全メンバーに文書通知をすべき
- ・ 対話そのものが非公開であり、終了後に発表報告があるものの、その内容が真実に基づいているか、工作されているか担保がない。報告される地層処分情報は推進側に都合のいいもので、文献やネットで十分知りえる程度のもの
- ・ 賛否関係なく、平等・対等に対応すべき。「知る・学ぶ」際には、賛否両方の考えを持つ人達による説明や講習を行わないと、学び方が偏ることになるからフラットではない。国、NUMO側に都合の良いことだけを吹き込んでいるようにしか見えなかった

【対話の場現委員の方（神恵内村）】

（十分だ）

- ・ 長い時間をかけて私たちの疑問に対応してくれている
- ・ 神恵内を知らなかった方々が地域に寄り添ったイベントに参加されてありがたい
- ・ NUMOの対応はとても良い、興味ある人にしか理解がないか

Q.国の関わり方について、どう思いますか。どんな時に、なぜそのように思いましたか。

【対話の場現会員の方（寿都町）】

（不十分だ）

- ・ 国民全体で考えなくてはならないこと。調査に手を挙げた町村のことを考え、もっと国が介入していい。調査候補地に名乗りをあげる自治体を増やせるようにもっと国が介入していい
- ・ もっと前に出ての説明が必要
（全く不十分だ）
- ・ 国の関わり方というよりも考え方が間違っている。六ヶ所再処理工場も26回工事が延され、破綻しているのに、稼働にこだわり税金投入されている。能登半島地震を見ても、科学的特性マップが如何にデタラメかがわかる。日本は地層処分ではなく、他の考え方を検討すべき
- ・ 話し合いをしている事は、国会議員たちには「田舎の素人が適当に集まって話している」くらいの認識なのでは

【現在出席されていない方、非会員の方】※主に勉強会メンバーの方

（十分だ）

- ・ 国の関与には二面性があり、関与することで事業の前進は期待できるが、国民の理解を得るのに直結するとは考えにくい。国が前に出ても収用方法等々で地域の意思が優先できない場面も考えられる。地域が悩み苦しんでも解決する意思は地域の意思であるべき
（不十分だ）
- ・ 対話の場は経産省職員も傍聴しているのに、まちの将来に向けた勉強会には出席していない
- ・ インタビューで参加者の発言に同意する部分があった。経産省次官クラスが寿都町のために行動している報道が伺えない。一度経産省と町民と対話の場があってもいいか。NUMO任せに感じる
（全く不十分だ）
- ・ 国の関わりは何をもって評価すべきなのか不明。金で理解という言葉を買っているに過ぎない。「大切なエネルギーを紡ぐ私たちの未来(2024.2.21)」の国のあいさつでも対話の場の実施回数理解度の尺度のように話している。授業の出席日数の量が理解力ではない
- ・ 対話の場も勉強会の場にも「国の人間」が常にいるべき。NUMOだけだと「知りたい」と思った時に、いつも回答が先送りになる。常にいればリアルタイムにスムーズにできるのではないか

【対話の場現委員の方（神恵内村）】

（十分だ）

- ・ 質問に答えたり、追加説明も状況に応じ対応してくれている
（どちらでもない）
- ・ 手を挙げた自治体を守ってほしい、早く全国に打診してほしい
- ・ 物足りない気がするが、国としては限界か
（不十分だ）
- ・ もう少し対話の場に参加してほしい
- ・ 全国的な理解活動の推進
- ・ もう少し積極的な雰囲気してほしい

Q1.進行方法は、偏ったりしていませんかでしたか。改善すべき点がありますか。

Q2.ファシリテーターがいたことで、新たな気づきが生まれたり、対話は生まれましたか。

【対話の場現会員の方（寿都町）】

- （Q1）・ スムーズにバランスの取れた進行で論点をまとめていた
- （Q2）・ 限られた時間の中で適切に場をまとめ参加者の意見を導いていた
 - ・ ファシリテーターとNUMOの方の違いが感じられない
- （他）・ （休憩時間中）慎重派が悪いと言われたがファシリテーターが笑っていて印象が悪かった

【対話の場現委員の方（神恵内村）】

- （Q1）・ わかりやすく説明していただきました
 - ・ 多くの人の意見を出してもらえよう進行してくれた
 - ・ 色々な意見をきちんともれなく取り上げていたから
 - ・ 意見を流すことはこれまでもありませんでした
- （Q2）・ 私たちの言葉を拾って、わかりやすくまとめてくれた
 - ・ 難しい言葉をかみ砕いて説明してくれた
 - ・ もう少し聞きたい他者の意見を聞けて、自分の意見もそれに乗せて伝えられた

Q.インタビューでは、言いにくかったことはありますか。国やNUMOに何か伝えたいことがあれば、お願いします。（自由記述）

- ・「対話の場」を良くしたいと思ったからの参加ではない
- ・マスコミも住民もシャットアウトして行われた「対話の場」
- ・地域住民は「対話の場」に関心はない
- ・いつ開催されているのかも不明
- ・こんな「対話の場」をやって、「住民の理解を得た」と発信されては困る
- ・政府の政治的決断が必要
- ・もっと寿都町や神恵内村へ手厚い支援を
- ・電源立地交付金の使用目的を緩和してほしい
- ・マスコミや反対の声を聞く中で、それなりの支援を
- ・国会議員の資質に問題あり。発言に責任を持つべき
- ・「北海道の片田舎で申し込みしたんだから。ほぼ決まったんじゃないか」といった話が聞こえたことあり
- ・国会議員で、住民同等以上の知識を持っている人はいるのか
- ・地域の代表として出席しても誹謗中傷の嵐
- ・我関せずの議員、風見鶏の知事、国として難題に面している人はいるのか
- ・町長が強く言ったから、全国各地で説明会をしてるのではないのか
- ・野党一部が反対派を応援しているが、反対以外の代案は出しているのか
- ・「自然を破壊」するような言い方をしているが、実際に事故が起きる確率はどれほどなのか
- ・万が一、億が一、兆が一かもしれない確率を、確実に起こるかのような説明はどうなのか
- ・強く反対する人は野党に属している人が多く、「政争の具」にされている
- ・「対話の場」が文献調査終盤で開催されなくなった。今後も継続して行う必要がある
- ・町長も住民投票は、住民にも十分な知識を得てからとの発言
- ・オンラインアカウント「NUMO ROOM4」の参加者がいた、監視されているような気がして気味が悪い
- ・ファシリテーターも振り返り対象とすべきと思うが、目の前にいるため評価できなかった
- ・神恵内村と寿都町の対話の場、まちの将来に向けた勉強会で、参加者要望に対する対応が違いすぎる
- ・国は「対話」に必要な環境作りに明文化した基準を使ってほしい
- ・特定放射性性廃棄物小委員会には、委員によるNUMOへの意見聴取を実施すべきとの意見があり、実現すべき

- ・調査に手を挙げる時点で自治体の意思として、
 - ①最終処分場建設に向けて調査受け入れ
 - ②処分場受け入れは反対だが、自治体の意思が示せる文献～概要調査はぜひ実施したい。最終処分法や関連省令等でこの見解が正しいとは考えられない
- ・数十名の方がインタビュー参加されているが、今までの経過報告が知りたい
- ・国がNUMOに対して、隠れた情報が入っていることが見え隠れしている
- ・情報開示が難しい空気感が見える
- ・NUMOの活動が与党派政治活動の町民に伝わっていない。TVでの与党議員からの現状説明を願う
- ・参加者から、対話の場に選ばれた方が、仲間達・秘書役を参加させる考えの発言があり、これに賛成
- ・話しにくい印象はなかった
- ・総括に向けての聞き取りであるのだから、町の中に分断と住民間の疑心暗鬼を持ち込んだ張本人である行政の長と、事務方を務めた企画課長をはじめとする全関係者へのヒアリングを、第三者専門家に実施させるべき
- ・首長やNUMO、場にかかわったファシリテーターもインタビューの対象になるべき
- ・インタビュー依頼時に、あるべき選択肢(NUMO、ファシリテーター、調査会社)が提示されていない人が何人かいることが分かっている
- ・NUMOが「インタビュー対象だ」と言っていた幌延視察の人たちがインタビューの依頼すら受けていないことも分かっている
- ・なぜ人によってやり方が違ったり、そもそも嘘をついているのか。不公平、不誠実。信頼なんてできない
- ・インタビューで言いにくかったことはないが、依頼時におかしな点が多々あった。録音することが決まっているのに、町民側の録音は拒否、録音の開示も拒否。企画書での質問内容提示など「国とNUMOで決めたことだから」という言い訳も納得できない
- ・地層処分のあり方自体、全国民で議論しなおすべき
- ・「原発」はもうやめる。その上で今ある各ゴミをどうする？の議論はいいが、「原発をこれからも動かし続けるために作る処分場」は論外
- ・本アンケートも無記名と言いながら、記入後に個別にNUMOに提出となっている。返信用封筒など付けて、匿名性を担保すべきでは